

「まとめと学習・ 表現活動」 資料

都小社研 夏期研究会

令和8年度 8月 21 日

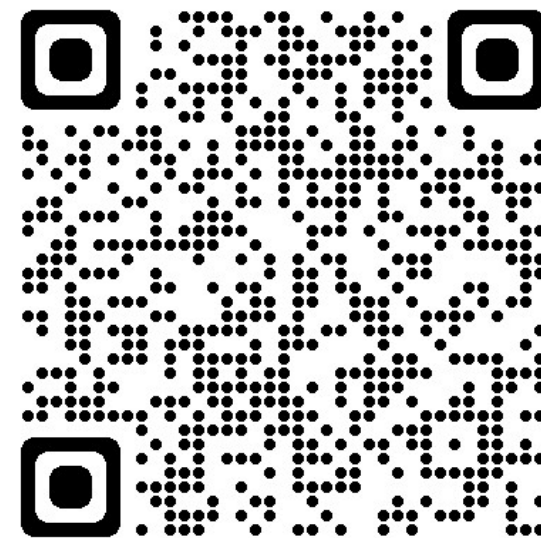
帝京平成大学 吉藤 玲子



『みんなの教育技術』
に連載しています。

教師人材の育成

大学生、若手や離職を考える教師に向けて



まとめる活動の課題

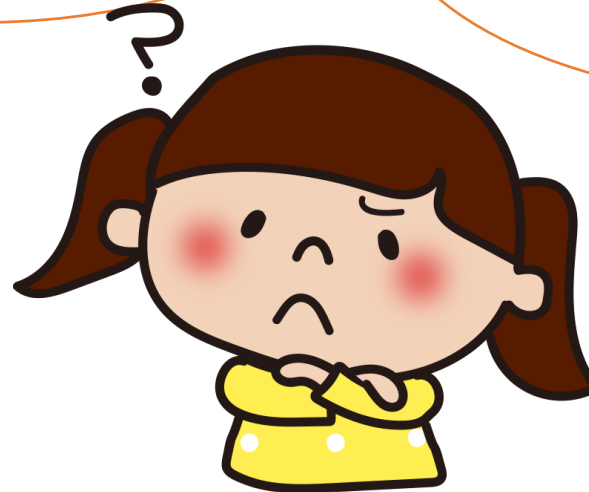
まとめは教師がするものではなく、子どもが
意味づけをする時間です

子供に考えさせたいのに教師が言っ
てしまっている。

子供に任せると
まとまらない。

あれっ？この学習問
題に対し、このまと
めでよいの？

子どもたちからもっと調べ
てみたいという声があがっ
ているか？



はじめに



今日の流れ

1) まとめの学習とは？ 表現活動とは？

2) 実際の事例を紹介 表現活動の実際

3) 実際にまとめの学習をやってみよう！
「米づくりの盛んな地域」新聞・プレゼンテーション

1) まとめの活動・表現活動とは

「まとめる」段階の活動とは

知識を整理する 「何がわかったのか」を整理する

関係づける 「なぜそうなっているのか」を考える

問いに答える

小単元を中心となる問いに対する自分の答えをもつ

判断する

表現する



まとめる段階

学習問題に対しまとめを行う

学習したことをもとに話し合い、まとめの活動を行う。

「まとめ」と「表現」をセットにすると効果的

- ・小単元の「問い」を振り返る
- ・学習したことを整理する
- ・自分の答えをつくる
- ・友達と交流する
- ・考えを修正する
- ・表現する

「調べる」から「分かる」へ
「分かったことを使って考える」

どのようなまとめの方法があるか

- ・調べたこと、インタビューしたことを書く、話す表現活動
- ・キーワードでまとめる
- ・表やグラフを使ってまとめる
- ・地図を使ってまとめる
- ・吹き出しを活用してまとめる
- ・年表やパンフレットにまとめる
- ・関連図にまとめる
- ・思考ツールを活用する
- ・新聞やスライドにまとめる

表現活動の実際

調べたことを書く、話す活動

文章でまとめる・・・
思考力や表現力を育てる

学習問題を振り返って、調べたことやわかったことをまとめる

「つまり何がわかったのか」

単元の学習のまとめであれば、単元を通して学習してきたことを活用してまとめる

何人かが発表する。 教師が板書でまとめていく。⇒合作

- ・今日学んだこと一番印象に残ったこと、自分の予想を振り返る
- ・学習活動を振り返る 単元の学習問題を振り返る
- ・自分と社会とのつながりについて振り返る

地図を使ったまとめ

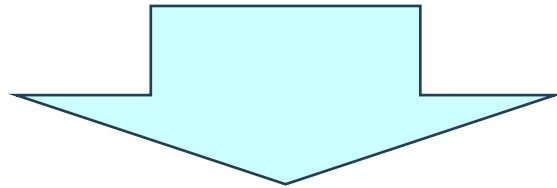
白地図などにまとめる活動は技能を身に付け、思考や理解につながる。

土地利用の様子など色分け。 国や都市の名称を書き込む
複数の場所を→で結びつながりの説明を書き込む
分布や広がりをまとめる カードと併用 事象の場所に添付
写真や吹き出しなどを添付する

リーフレット、ガイドブック、かるた、紙芝居
〇〇カード、ポスター、プレゼンテーションなど

まとめる活動では、子どもが目的や必然性を意識できるようにする。

なぜその方法でまとめるのか⇒どのようにまとめたらよいか



いかす ひろげる

まとめたことをさらに発展させていく

3) 演習①

「米づくりのさかんな地域」

東京書籍「米づくりのさかんな地域」
JAバンク『農業とわたしたちの暮らし』

【小単元の目標】

我が国の農業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、農業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、農業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして良質な農作物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、農業の発展について考えようとする態度を養う。

事例地

山形県庄内平野

新聞にまとめよう

「米づくりのさかんな地域」

調べる段階

米づくりの一年

米づくりに関わる人々

米づくりの仕事の工夫

全国の消費者へ

米作りの課題と今後

「米づくりのさかんな地域」

4

農産物の生産

米ができるまで

動画資料
米ができるまで

稲刈り前の稲の様子



日本人は昔から米を大切にきたんだね。



米は、日本人の主食です。米はどのように生産されているのでしょうか。

調べる1

あなたがいつも食べている米には、どのような種類があるのでしょうか。米屋さんやスーパーマーケットなどで売られている米を参考に調べましょう。

日本中のどの都道府県でも、その地域の地形や気候に合った米がさいばいされ、食べられています。ここで示している種類は、ごく一部です。米のふくろを見て、あなたが家で食べている米の種類や産地を調べてみましょう。

代表的な品種

新しい品種



最近は味にこだわり、暑さに強く、安定した収めができる品種の開発に各都道府県が力を入れています。

調べる2

あなたが住んでいる地域では、下の作業は毎月どのように行われているのでしょうか。米カレンダーに書きましょう。

できれば上旬・中旬・下旬も書こう！

米カレンダー

なえを育てる → 田おこし → 代かき → 田植え

()月()旬ごろ ()月()旬ごろ ()月()旬ごろ ()月()旬ごろ



ビニールハウスの中で稲もみを発芽させ、田に植えるためのなえを12cmほどになるまで育てます。



かたくなった土をトラクターなどでやわらかく耕す作業を「田おこし」といいます。田に肥料をまきます。



田おこしのあと、用水路から水を引きます。水と土をまぜる「代かき」という作業を行い、田を平らにします。



田になえを植えます。田植え機で行いますが、田植え機が使えないすみの方は、手で植えることがあります。

中ばし → 農業をまく → 稲刈り・だっこく → カントリーエレベーター

()月()旬ごろ ()月()旬ごろ ()月()旬ごろ ()月()旬ごろ



あたたかくなると、田の水をぬぎ、土をかわかします。土に空気が入るので根が育ち、養分の吸収がよくります。



米が実るころは、病気や害虫が発生しやすい時期です。決められたルールにしたがって、ドローンなどで農薬をまきます。



コンバインを使って稲を刈り取ります。稲からもみだけを取り出す「だっこく」やもみの選別も、同時にすることができま。



取かきされた米が運ばれるカントリーエレベーターは、建物全体が、かんそうや貯蔵ができる機械のようになっています。

よい米はよい種もみから

種もみをつくる農家がJAなどに出荷します。稲作農家は、その種もみやなえをJAなどから買い、その中からよい種もみを選んで種まきに使います。

稲から白米になるまで

稲からもみだけを取り出す作業を「だっこく」、もみからげん米を取り出す作業を「もみすり」といいます。げん米の表面のぬかを取る（「精米」する）と白米になります。



まとめる

米ができるまでの作業や時間を調べて、どのような感想をもちましたか。伝え合ってみましょう。

ワークシートは
こちらから

農業とわたしたちの暮らし

いっしょに学ぼう！

米子 米太

[小学校高学年]

目次

● 農業とわたしたちの暮らし

1. 給食の食材は何か 動画 2

● 日本の農業

2. 日本農業マップをつくろう 4

3. 農業と地形や気候 6

● 農産物の生産

4. 米ができるまで 動画 8

5. 野菜ができるまで 動画 10

6. 果物をつくる 動画 12

7. 牛を育てる 動画 13

8. 農業技術の変化 動画 14

● 農産物がとどくまで

9. 消費地にとどける 動画 16

● これからの持続可能な農業

10. 力を合わせて農業をつなぐ 動画 18

11. がんばる農業を支える 動画 20

12. 環境や社会の変化に

応じて進み続ける農業 動画 22

13. 農業の発展と消費者の関わり 24

● 自由研究

農業・農村に関わる

「なぜ?」「どうして?」「どうなっているの?」

親子でチャレンジしよう!

自由研究 26

※ 動画のマークがついた項目には、動画の資料があります。

チャレンジ!!

SDGsの目標についても考えてみよう

P.8~9

「米づくりのさかんな地域」

8

農産物の生産 農業技術の変化

資料1 農業機械・器具の移り変わり



農業を行う技術は、長い歴史の中で変わってきました。農業機械や技術の進歩によって、農業はどのように発展してきたのでしょうか。



めあて



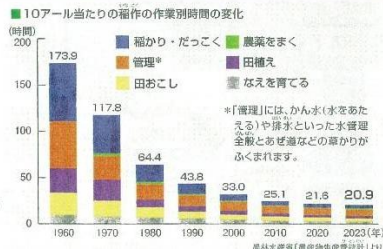
調べる1

農業機械の発達によって、農作業を行う時間はどのように変化したのでしょうか。

資料2 作業時間の変化

さまざまな作業が機械化されたことによって、それまで人の力で行ってきた作業時間が短くなり、かかる手間が少なくなりました。

1960年と2023年を比べると、作業時間はどのように変わったかな。最も短くなった作業は何か？



調べる2

農業技術はどのように変わり続けているのでしょうか。

資料3 「スマート農業」の取組

無人で動く田植え機やトラクターの開発、ドローンを使って肥料や農薬をまくなど、ロボットやAIなどの先端技術を活用した農業のことを「スマート農業」といいます。

農家の減少や高齢化が進み、農作業を行う人が減っていますが、先端技術の活用によって、少ない人数でも広い面積の農作業をこなせるようになります。さらに、農作業に慣れていない人でもしっかりと、効率的に農作業ができるようになります。

また、気象データをAIで分けて、農作物の育ち方や、病気、害虫の発生などを予測する実験も進んでいます。これらのデータを提供し、ほかの生産者と共有することで、さらに効果の高いデータが集まっていきます。



無人による自動播種田植え機
資料提供: 農研機構
内閣府 農林水産省 農林政策推進プログラム(SIP) 研究促進



ロボットトラクター

GPSなどを使って設定したルートで自動走行できるで、人が作業するよりも短時間で効率よく行うことができます。



収かくロボット

赤く熟したりんごだけを見分けて収かくできる。人の手で触れることがないため、実がたみにくい。



自動水管理

水位や水温などをセンサーで測定し、スマートフォンで確認できる。水を足したり、めいたりなどの操作もできる。



生育状況の把握

ドローンにつけた特別なカメラで集めた情報を分けることで、植物の状況を数値化して記録することができます。

考え
表現する

農業に関わる人々は、どのような願いをもって農業技術を開発してきたのでしょうか。

資料を選び、それをもとにして自分の考えを説明しましょう。



ふかめる

外国と比べて農地が少ない日本では、昔から農業に適していない土地をさまざまな工夫や努力によって、農地につくり変えてきました。どのような工夫や努力があるのでしょうか。

農地をつくる工夫や努力

例えば棚田とは、山などの斜面で田がつくれない土地を階段状にして水平な田につくり直したものです。同様にしつづけた畑を段々畑といいますが、干拓とは、遠浅の海や湖、沼の水を堤防でしめ切つてめき、農地などにすることです。

開拓とは、森や荒地を切り開いて、田畑や牧草地などにする事です。

棚田



島根県喜望峯町
(大井谷棚田)

干拓



秋田県大森町
(八郎湖干拓地)

開拓



北海道紋別市
(開拓地の風景 1961年)

2026年度版

農業と わたしたちの 暮らし

[小学校高学年]

いっしょに
学ぼう！



こめ
米子

こめ
米太

目次

● 農業とわたしたちの暮らし

1. 給食の食材は何か？ 動画 2

● 日本の農業

2. 日本農業マップをつくろう 4

3. 農業と地形や気候 6

● 農産物の生産

4. 米ができるまで 動画 8

5. 野菜ができるまで 動画 10

6. 果物をつくる 動画 12

7. 牛を育てる 動画 13

8. 農業技術の変化 動画 14

● 農産物がとどくまで

9. 消費地にとどける 動画 16

● これからの持続可能な農業

10. 力を合わせて農業をつくる 動画 18

11. がんばる農業を支える 動画 20

12. 環境や社会の変化に

応じて進み続ける農業 動画 22

13. 農業の発展と消費者の関わり 24

● 自由研究

農業・農村に関する

「なぜ?」「どうして?」「どうなっている?」

親子でチャレンジしよう!

自由研究 26

※ 動画のマークがついた項目には、動画の資料があります。

チャレンジ!!

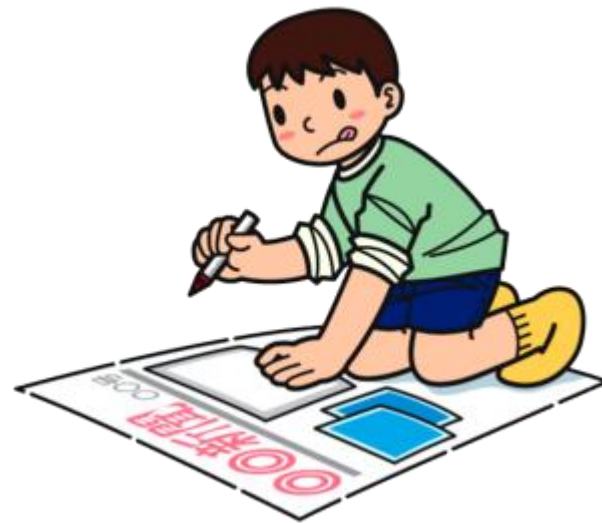
SDGsの目標についても考えてみよう

P.14~15

「米づくりのさかんな地域」

まとめる段階

学習問題



庄内平野で米づくりにかかわる人々は、どのようにくふうや努力をして、米を生産しているのでしょうか。

新聞にまとめてみよう

「米づくりのさかんな地域」

- 新聞に掲載する内容を考えて見出しを決める。
- 写真やイラスト、グラフなどの資料を入れる場所を考えてレイアウトを決める。
- 5W1Hを意識して調べたことを見出しごとに書く。
When, Where, Who, What, Why , How
- 新聞記者になりきったつもりで・・・インタビューやコメントを記事に付け足す。
- 社説や編集後記に自分の考えを書く。

3) 演習②

スライドにまとめてみよう

「米づくりのさかんな地域」

【プレゼンにまとめるメリット】

- 学習したことを構造化できる
- 「まとめる」こと自体が思考活動になる
 - ・何を入れるか・何を削るか・どの順番で示すか
 - ・写真・図・グラフをどこに使うか
 - ・自分の考えをどこに位置付けるか
- 「相手に伝える」という目的が生まれる

情報の整理